

福 井 県 医 師 会

だより

第701号 令和元年(2019)11月



踊る少女

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：踊る少女

福井市 石黒 信彦

白山の頂上には、油ヶ池・紺屋ヶ池・翠ヶ池・血の池・五色池・百姓池の6個の池がある。10月も中旬を過ぎると冬支度が始まり、池には氷が張り、時には初雪が見られる。ここ血の池では、割れた氷に雪が吹付け、少女が楽しそうにダンスを踊っていた。

醫 縫 録

若狭地域における 杉田玄白記念公立小浜病院の将来像

杉田玄白記念公立小浜病院長 谷澤 昭彦



今年4月より、杉田玄白記念公立小浜病院の病院長を拝命しました谷澤でございます。新人病院長としてどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度までは福井大学病院の中から地域の病院や診療所を見ていたのが、これからは地域の総合病院の立場で大学病院や同じ嶺南医療圏で地域医療を担う病院・診療所、更に舞鶴市、京都市を考へることになりました。小浜に来て意外だったのは、京都が思っていたより随分近く、高速道路で福井市内に行くのと一般道で京大病院に行くのと時間的にあまり変わらないことです。しかしバス・電車を利用して嶺北や京都市内に出かけるのはやはり遠くて不便なのは言うまでもありません。

私が旧福井医科大学小児科に赴任した1993年当時、骨髄移植をするなら名古屋へ、乳幼児の手術の一部は金沢医科大学小児外科へ紹介という状況でした。また小児がんを疑った時点で嶺北の医療機関からそのまま県外の大学病院へ紹介されている話も聞いていました。県外に行かなくても小児がんの診断から集学的治療まで福井県内で完結できるようにして欲しいという患者さん家族の思ひは、現在の若狭地域の住民の方たちが求めているものと重なるところがあると感じます。週末に家族で遊びに行くのであれば、1時間半のドライブは近いと感じるでしょうし、電車・バス乗り換えで2～3時間で着くのであれば、少し遠くに出かけるだけの感覚かもしれません。大学病院等でしか実施できないような特殊な手術や最先端の医療は致し方ないとしても、病気を抱えた状態での遠方の病院への通院や入院は患者さんや家族に大きな負担を課すこととなります。

かかりつけ医や病診連携など役割分担を進めて医療を提供するシステムのもと、子どもの病気、分娩、予防を含めての長期に係わる生活習慣病、癌を始めとした幅広い疾患の診断から治療、その

後の外来での管理までを毎日生活している地元の中で完結できる医療体制を構築して安定的に維持することが若狭地域の医療にとって不可欠なものと考えます。今年になって小浜市内のクリニックが分娩の取り扱いを終了し、敦賀市から舞鶴市の間で分娩を扱う施設が当院のみとなりました。産科診療、また当院の特徴である24時間体制の救命救急センターも地域の人たちにとっては欠くことができない医療と考えます。一方、産科クリニックの分娩取り扱い終了により当院での分娩数は一時的には増加しても、長期的には分娩数も含め人口は減少していきます。地方の多くの公的病院が抱える、救急・小児・周産期・災害時・精神・へき地医療等を担いながら医師・看護師・コメディカル職員不足問題、働き方改革、将来的に人口減少が避けられない状況下での経営改善対策など、当院においても解決すべき課題が山積しています。10年、20年先に地域の住民がどのような医療を必要としているのか、行政がどのようなビジョンを持って地域医療を支えていくのかは、将来の病院像をイメージするうえで非常に重要な要素となります。

職種に関係なく、若狭地域で生まれ育ち、生活の拠点を構えている職員や、勤務歴の長い職員からは患者さんのためにと医療機器購入や人員増員の要望があります。地域の医療を何とかしたいという、小浜病院や若狭地域への愛や熱い思ひを強く感じます。このような熱意のある職員が小浜病院にとって医療設備や建物以上に大切な財産だと思っています。今後、微力ではありますが、病院職員一丸となって、病院理念の「地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院」に沿って良質な医療を継続して提供できるように努めていきたいと思ひます。